

マクロプルーデンスの視点

国際的な議論の整理

- (1) 金融機関行動を契機に、リスクが内生的に変化、波及すること(プロシクリシティ、資金流動性の問題)、また特にシステムミックに重要な金融機関に十分な注意を払う
- (2) 金融機関行動によってもたらされる信用量の増減、資産価格バブルといったマクロ経済的現象、実体経済の動向が金融機関行動に与える影響など、「金融システムとマクロ経済の相互関係」に十分に目を配る
- (3) 銀行以外の様々なプレイヤー、金融コングロマリットなどにも配慮し、金融システム全体に目を配る

具体的な動き

1. システム上重要な金融機関への対応

- ・課徴金か規制か

→米国では、商業銀行の規模や業務範囲を限定するボルカールール。Too Big to Fail問題への対応を優先。

- ・Too Big to Fail問題への対処として、秩序だった破綻処理を可能にする環境整備も義務づけ。

2. マクロプルーデンスの監督当局の設置

- ・必要な役割と態勢

- ・米、英、EUの動き

3. 景気安定化効果を期待した規制の考案

- ・ マクロ経済安定化策としてのカウンターシクリカルな規制への模索
- ・ 金融政策との関係

(様々な提案)

- ・ 自己資本比率規制を能動的に活用
 - レバレッジレシオ、可変的自己資本比率規制
- ・ コンティンジェントキャピタル
- ・ ダイナミックプロビジョニング(動態的引当)
- ・ LTVレシオ規制
- ・ 流動性規制